

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K10306

研究課題名(和文) 健常高齢者の抑うつ状態および認知機能低下発現を予測するバイオマーカーの開発

研究課題名(英文) development of biomarkers predicting dementia incidence

研究代表者

門司 晃(monji, akira)

佐賀大学・医学部・教授

研究者番号：00294942

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：平成16年から佐賀県伊万里市黒川町地区において、65歳以上の住民を対象に健常高齢者疫学調査をこれまでに合計四回実施してきた(以下「黒川町研究」と表記)。黒川町研究では血液および唾液サンプル由来の生化学指標測定と、抑うつ状態・認知機能の評価、および頭部MRIの撮像を行い、うつ状態、認知機能と各種バイオマーカーの前方視的評価を行うための基礎データを集積してきた。得られた結果の一部を英語論文にまとめ、国際誌に投稿後受理された。さらに心理検査および生化学指標のそれぞれの結果と頭部MRI画像の経時的な定量的変化との相関を検索し、その結果を学会発表後に英語論文として投稿し、現在査読中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

健常高齢者を対象に、心理検査、脳画像、生化学指標を同時に、約15年以上の長期間にわたり縦断的に調査を行った点で我々の研究は学術的意義が極めて高いと考える。健常高齢者の抑うつ状態発現や認知機能低下発現を予測するバイオマーカー(群)を見出すことで、認知症予防のためのより効率的な健常高齢者対象の疫学調査の在り方が明瞭となることが期待される。

研究成果の概要(英文)：Since 2004, a total of four epidemiologic surveys of healthy elderly people have been conducted in Kurokawa Town, Imari City, Saga Prefecture, for residents aged 65 and over (hereinafter referred to as "Kurokawa Town Study"). In the Kurokawa-cho research, to measure biochemical indices derived from blood and saliva samples, evaluate depression and cognitive function, and image MRI of the head to perform a forward-looking evaluation of depression, cognitive function and various biomarkers. Has collected the basic data of. A part of the obtained results was compiled into an English paper, which was accepted after being submitted to an international journal. Furthermore, we searched the correlation between each result of the psychological test and biochemical index and the quantitative change over time of the MRI image of the head, and submitted the result as an English paper after the conference presentation, which is currently under review.

研究分野：精神医学

キーワード：認知機能 抑うつ状態 健常高齢者 疫学研究 認知症

## 1 . 研究開始当初の背景

平成 16 年から佐賀県伊万里市黒川町地区において、65 歳以上の住民を対象に健常高齢者疫学調査をこれまでに合計四回実施してきた(以下「黒川町研究」と表記)。

## 2 . 研究の目的

健常高齢者の抑うつ状態発現や認知機能低下発現を予測するバイオマーカー(群)を見出すことで、認知症予防のためのより効率的な健常高齢者対象の疫学調査の在り方を明瞭にすることが研究の目的である。

## 3 . 研究の方法

黒川町研究では血液および唾液サンプル由来の生化学指標測定と、抑うつ状態・認知機能の評価, および頭部 MRI の撮像を行い, うつ状態, 認知機能と各種バイオマーカーの前方視的評価を行うための基礎データを集積してきた。

## 4 . 研究成果

得られた結果の一部を英語論文にまとめ、国際誌に投稿後受理された。さらに心理検査および生化学指標のそれぞれの結果と頭部MRI画像の経時的な定量的変化との相関を検索し、その結果を学会発表後に英語論文として投稿し、現在査読中である。

健常高齢者を対象に、心理検査、脳画像、生化学指標を同時に、約15年以上の長期間にわたり縦断的に調査を行った点で我々の研究は学術的意義が極めて高いと考える。

今回の結果に基づき、健常高齢者の抑うつ状態発現や認知機能低下発現を予測するバイオマーカー(群)を見出すことで、認知症予防のためのより効率的な健常高齢者対象の疫学調査の在り方が明瞭となることが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Imamura Y, Mizoguchi Y, Nabeta H, Haraguchi Y, Matsushima J, Kojima N, Kawashima T, Yamada S, Monji A.	4. 巻 32
2. 論文標題 An association between belief in life after death and serum oxytocin in older people in rural Japan.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Geriatric Psychiatry	6. 最初と最後の頁 102-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi: 10.1002/gps.4453.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 折橋隆三、溝口義人、今村義臣、門司 晃
2. 発表標題 地域在住の高齢者を対象として血清オキシトシン濃度と頭部MRI画像解析結果の関連を検討する
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 門司 晃
2. 発表標題 認知症の新規発症を減らすために、気分障害や睡眠障害の観点から考えるべきこと
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	溝口 義人  (mizoguchi yoshito)  (60467892)	佐賀大学・医学部・准教授    (17201)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	立石 洋  (tateishi hiroshi)  (50457470)	佐賀大学・医学部・助教    (17201)	
研究分担者	松島 淳  (matsushima jun)  (90773151)	佐賀大学・医学部・助教    (17201)	